

肝心かなめの 肝臓 のはなし

6

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉

B型慢性肝炎の治療 — その1 経口薬 — 核酸アナログ

B型慢性肝炎の治療目標は、究極的には発がんの防止です。しかし、短期と長期の目標は異なります。

短期目標は①ALT（炎症の程度）の数値を正常化して、ウイルス増殖の強さを示すHBe抗原を陰性化すること、②

HBV DNA量（B型肝炎ウイルスのDNA量）を検出感度以下にすることの2つです。長期目標としては、ウイルス感染を決定するHBs抗原の陰性化が挙げられます。

これらの目標によって、肝硬変、肝細胞がんの進展を抑える薬剤を使い分けていきます。

短期目標のためには、肝臓の炎症の活性を抑え、HBV DNA量を感度以下にする抗ウイルス薬を服用します。

抗ウイルス薬は、B型肝炎ウイルスが増える仕組みを妨害し、ウイルスの増殖を抑える薬剤です。2000年から発売されましたが、現在は2006年に発売されたエンテカビル、2016年に発売されたテノホビルアラフェナミド（TAF）

【B型肝炎の治療目標】

短期目標

- ①ALTの正常化・HBe抗原の陰性化
- ②HBV DNAの検出限界以下

長期目標

HBs抗原の陰性化

「治療効果が高い薬剤

が主流となっています。どちらも副作用が少ない経口薬（飲み薬）です。これらの薬剤はDNA（デオキシリボ核酸）を形作る物質と構造が似ていることから、「核酸アナログ」とも呼ばれます。

DNA量を感度以下にするのは極めて簡単となりました。さらに核酸アナログの服用者は、被服用者に比べがんの発症が少ないことも確認されています。

次号は長期目標のための治療法である、ペグインターフェロン治療についてお話しします。

【B型肝炎経口薬の歴史】

2016	2014	2006	2004	2000年
テノホビル アラフェナミド (TAF) 発売	テノホビル ジソプロキシル・ フマル酸塩(TDF) 発売	エンテカビル 発売	アデホビル 発売	ラミブジン 発売